



特集

# 盛岡芸妓文化を継ぐ

## 一本立ちした芸妓・喜久丸さんに聞く！

盛岡の貴重な文化・盛岡芸妓を未来へ継承すべく、盛岡芸妓後援会は数年前から若手育成に努めてきました。そして今年、芸妓見習い「ひよ妓」として5年の経験を積んだ喜久丸さんが一本立ち。新たな節目を迎えた今、その思いを喜久丸さんに伺います。

### ◆まずは、盛岡芸妓の歴史から。

明治時代から、その芸の質の高さを全国に知られていた盛岡芸妓。明治41年の東北6県連合共進会演芸の部で見事優勝しています。かつては、八幡町周辺の幡街と、本町を中心にした本街の2つの花街があり、最盛期には200人近い芸妓が活躍していたそうです（もりおか物語・八幡町かいわいより）。全国の芸妓は置き屋に所属し、そこで稽古をしたり着物揃えたりするのが一般的。しかし、盛岡の芸妓は「函番」と呼ばれる事務所に登録し、そこから個々の芸妓が手配されていきました。

もともと、盛岡は藩政時代の頃から芸事が盛んな土地柄。歌舞伎芝居、寄席などの舞台があちこちに常設され、明治期以降も、長唄や踊りなどを教える師匠が花街周辺にたくさん住んでいました。八幡町や本町に育った女の子は、幼少期から芸事の稽古に勤しみ芸妓を目指したようです。

その芸にいつそう磨きをかけたのが、邦楽を代表する語りものである「常磐津」の名人、常磐津林中による指導。明治25年から28年にかけて、父の故郷・盛岡に数年間滞在した林中が直々に稽古をつけたこと

は、盛岡芸妓の芸の質の高さに大きく影響していきます。この縁をきっかけに、代々の常磐津師匠を招き、現在は5代常磐津文字兵衛より年に一度、指導を受けています。また、踊りの指導者として、初代若柳力代（現在、よう子姐さんが4代目若柳力代を継承）を迎えたことで、日本舞踊だけでなく芝居の指導も受け、いつそう芸の幅を広げられました。

長唄、踊り、常磐津、鳴り物など芸の披露とおもてなしを身につけた盛岡芸妓は、現在も7人が活躍中。次に続く世代を育てるためにも、先頃一本立ちした喜久丸姐さんを応援し、今後の継承へとつなげていきたいものです。



「盛岡芸妓と楽しむ会」も開催されている

## 喜久丸姐さんにインタビュー

### 「独り立ちした今の実感は？」

興味を持って入った世界ですが、実際に学びはじめると難しいことだらけで……。日々のすべてが学びでした。姐さん方からは芸事はもちろん、盛岡芸妓の歴史や風習、お客様との接し方、立ち振る舞いなど全てにわたって教えてもらいました。毎日、自分の中で知識が更新されていくうち、単に「やってみよう」という気持ちで、徐々に「この文化を残していく一人でありたい」という意識へと変わってきた気がします。



長唄の師範(杵勝会) 杵屋寿二氏の稽古を受ける盛岡芸妓たち

目指すべきイメージを周囲から固めてもらっている感じですか。

### 「おもてなしのプロとも言われる盛岡芸妓。その奥深さをどう感じていますか？」

お座敷はお客様という「人」が相手。お客様のノリもそれぞれですし、好みも違います。お客様の中に県外の方がいれば、盛岡らしい踊りや唄をお見せするように変えるなど、臨機応変な対応が大事な場面も多くあります。それは、先輩である姐さん方の積み重ねがあつてこそ。お客様やお座敷に合わせて、演目をさつと組み立てられるんです。私はまだ何もできませんが、パツと対応できる引き出しの多さは、何十年と続けているからこそ、と感じます。

### 「常磐津や長唄など、県外から指導者を招いて学ぶ機会もあるようですね。」

常磐津は、地方で継承される土地が少なく希少です。だからこそ、年に1回、東京から先生を招いて直接教えていただくのは本当に幸せなこと。長唄も神戸から年に4回、先生をお招きしています。やはり、目の前で先生が唄う迫力、発する音が本当にすぐくて圧倒されます。具体的に指摘を受けた一音を集中的に練習したり、節回しの加減をその場で聞ける時間は貴重でありがたいことです。

### 「お客様から学ぶことも多いとか？」

踊りや唄に関して、経験のあるお客様に厳しく温かいアドバイスをいただく事もあります。例えば、最初の頃は「視線が定まらず瞬きが多いだけで素人っぽく見えるよ」とか、観客側の視線でないと気がつかない点をさまざま教えていただきました。姐さん方のお客様は、昔から芸妓を知っている方がほとんど。お客様も「教える事が芸妓を育てていくこと」であると承知していらっしゃるんですね。

### 「盛岡芸妓の未来を担う一人として、どんな思いがありますか？」

今までは、地元のお客様が多かったようですが、きつと今後は観光資源としてのアピールにも目を向けたいと仕事として成り立たないのかもしれないとは思っています。守るべき核は大事にしつつ、それを守るために変わることも恐れずに進んでいきたい。

未来に続けていくには、指導の全てを姐さん方に委ねるのは負担が大きいので、文化として育てる公的なしくみや場所があるといいなあと感じています。

### 「最後に、改めて盛岡芸妓の魅力は？」

芸の質の高さ、そして温かさが盛岡芸妓の魅力。学べば学ぶほど、そのすごさを感じています。姐さん方には、この土地で芸妓を続けている「誇り」があると思いますし、土地の人間として温かさが滲み出ているんです。自然にこの盛岡という土地柄の良さを知ってほしいと思うからこそ、伝わるモノがあるのだと思います。だからこそお客様にも、本物の芸を見てもらいたい。

体験会も少しずつ増えているので、若い皆さんも音楽イベントや舞台を観に行くような感覚で、一度観にきてもらえると嬉しいですね。お座敷にきてくれるお客様と一緒に、これからの芸妓文化をつくり上げていきたいと思っています。



## 喜久丸姐さん

### ■プロフィール

盛岡市出身。  
小学生の頃に吹奏楽をはじめ、大学時代はオーケストラでコントラバスを担当。芸妓見習い「ひよ妓」期間を終え、2020年8月1日、盛岡芸妓として一本立ち。10月28日に開かれた「盛岡芸妓後援会」のお披露目会を経て、さらなる芸の向上に邁進中。

(※本取材においては、双方のマスク着用等、新型コロナウイルス感染防止に必要な対策を施し実施しています)